

日本医師会定例記者会見

ポリオワクチンに対する日本医師会の見解

平成 23 年 11 月 16 日
常任理事 保坂シゲリ

ポリオワクチン禍 日医 不活化ワクチンの導入等を強く要望へ

本年、日本の属する西太平洋地域のポリオ根絶宣言を準備中と伝えられているなかで、福岡県に発生した二例のポリオワクチン接種後のトラブルは、確かに国中を震撼させた。

厚生省公衆衛生審議会感染症部会と中央薬事審議会医薬品等安全対策特別部会において、ワクチンそのものの品質・安全性には問題がないことが確認されたが、福岡県に発生した一歳一カ月の男児は、ワクチンによる副反応と認定され、その後に発生した宮崎県の三十七歳の男性も、ワクチン接種した娘からの接触感染によるポリオと確認された。

ポリオワクチン接種については、生ワクチンを使用する場合は、麻痺を起こす副反応が約四百四十万人に一人、接種者からの感染は約五百八十万に一人と統計的に報告されている。現に日本でも前者で、一九七七年より一九九四年の発症を最後に十二例の麻痺性の副反応が報告され、後者では一九八〇年より一九九三年を最後に九例の接触者感染によるポリオの発症が確認されている。現在、毎年約百二十万人が二回ずつワクチン接種を受けている現状を考えると、二～三年に一人ずつは両者によるポリオの発症が予測されることになり、これを容認しておくわけにはいかない。

西太平洋地域においては、最近の三年間には野生ウイルスによるポリオの発症は皆無である現状で、今後、いつまで現在の接種方法を継続すべきかどうかの議論を早急にする必要がある。また、すでにアメリカ、カナダ、フランス、その他北欧諸国で実施され、副反応がきわめて少ないといわれている不活化ワクチンの導入も早急に検討しなければならない。

さらに、接触感染によるポリオの発症については、ワクチン接種者の糞便、または、咽頭分泌液から排出されるウイルスから経口的に感染することが明らかであることから、接触者の糞便や吐物の処理、特に、接触者の手洗いの徹底等について十分理解できる情報提供を実施し、発生率ゼロを目指して努力をしなければならない。

ジェンナーが種痘ワクチンの開発中に、周囲の理解・協力が得られず、息子を実験に使った話は有名であり、その後種々の予防接種が人類に大きな恩恵をもたらしたことは、だれもが認めるところである。

しかし、すでにポリオ根絶後久しい日本で人命尊重の面からも、例え五百万人に一人でも犠牲者を出すことを容認することは許されず、早急に日医では、常設の感染症危機管理対策室会議を招集し、今回の緊急事態につき、次の二点について申し合わせた。

- (1)不活化ワクチンの導入を強く要望すること。
- (2)接触者感染を絶滅するために、ワクチン投与についての十分な情報提供を徹底すること。



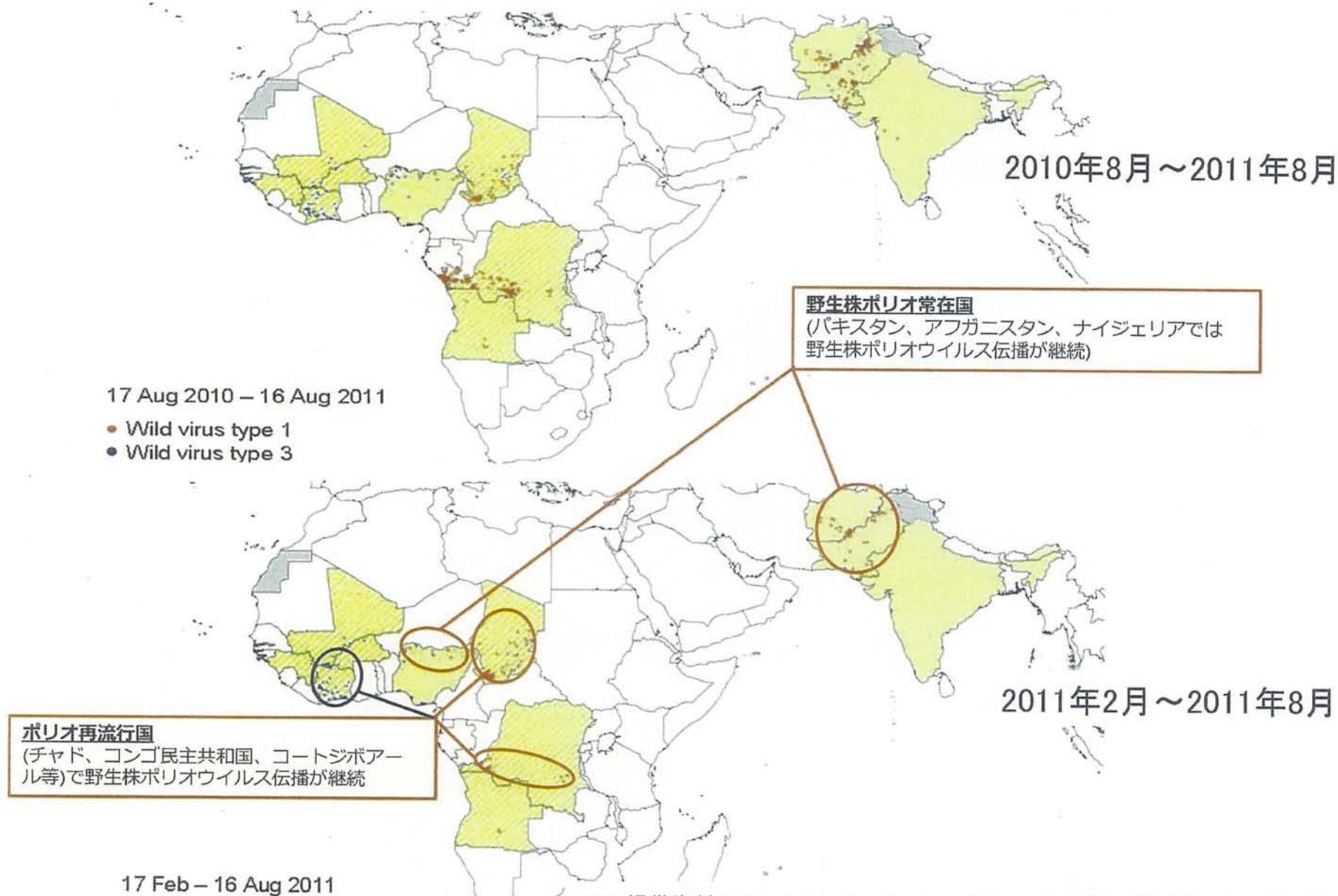
[日医ニュース目次へ](#)

ポリオ生ワクチンの接種者数の推移 (平成21年度から平成23年度(4月～6月分))

- 平成21年度から平成23年度の4月～6月の接種者数を調査し、平成22年度及び平成23年度の接種者数の対前年度比を示す(平成21年度から平成23年度の接種者数をすべて回答した市区町村のみを集計。有効回答数:1,743市区町村のうち、1,607市区町村。)

	平成22年4月～6月 (対前年度比)	平成23年4月～6月 (対前年度比)
全国平均	+3.2%	-17.5%
【地域別】	平成22年4月～6月	平成23年4月～6月
北海道	+3.2%	-18.0%
東北(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)	-5.9%	-19.6%
関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)	+3.7%	-22.4%
中部(新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知)	-0.9%	-10.2%
近畿(三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)	+10.3%	-18.0%
中国四国(鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)	+4.7%	-14.7%
九州(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	+2.5%	-16.1%
(参考) ※厚生労働省人口動態調査による出生数	平成21年生まれ 1,070千人 (対前年度比 98.1%)	平成22年生まれ 1,071千人 (対前年度比 100.1%)

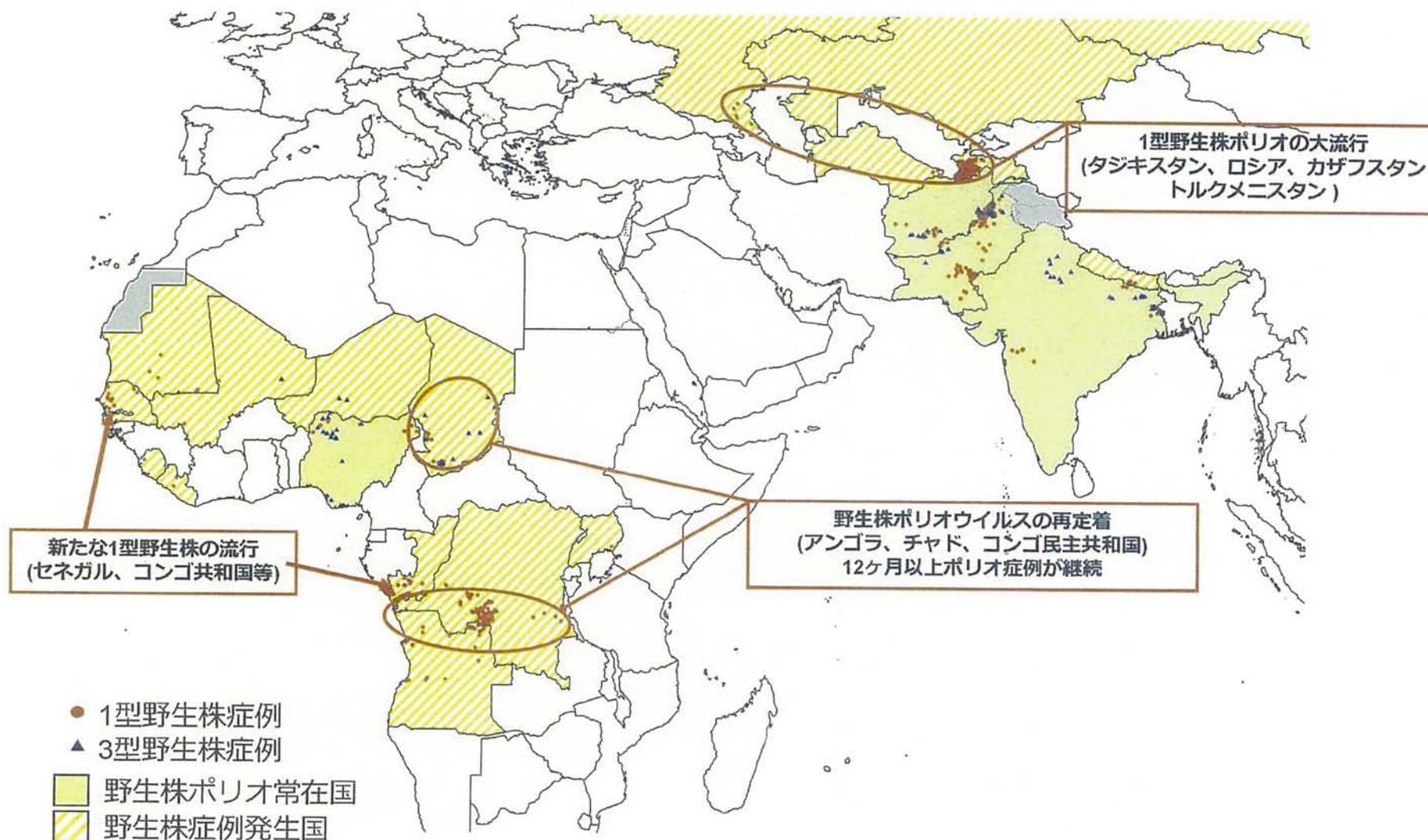
ポリオ症例の分布 2010～2011



WHO提供資料 (Global Polio Eradication Initiativeウェブサイト) をもとに一部改変

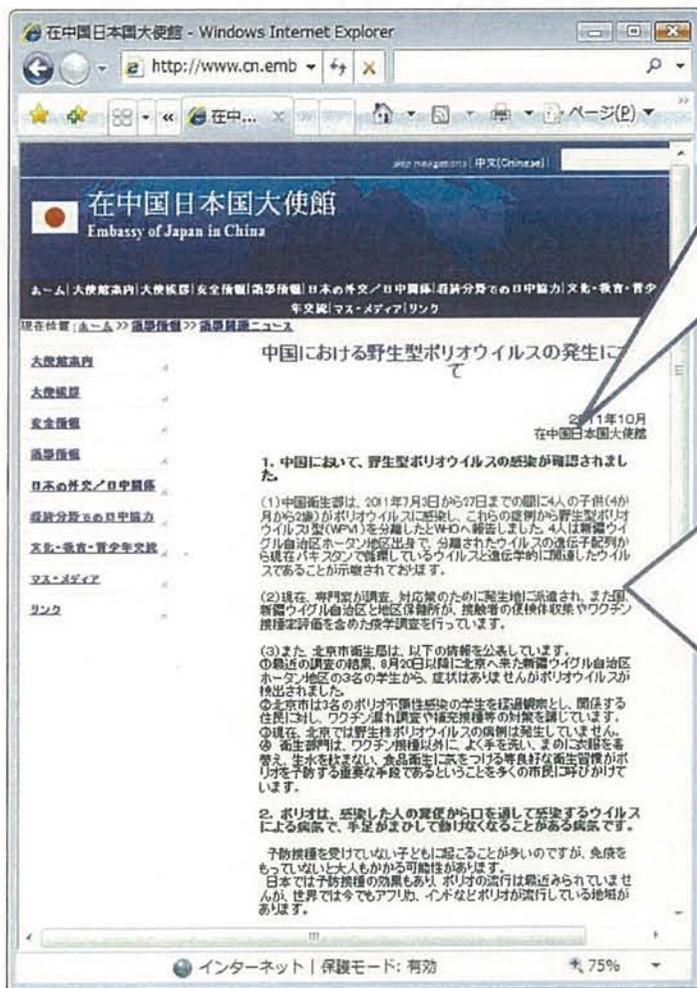
野生株ポリオ症例の分布, 2010年

流行国からの輸入によるポリオ再流行



WHO提供資料 (The Ad Hoc small working group discussion会議資料、2011年4月) をもとに一部改変および和訳

中国における野生株ポリオの感染について



1. 中国において、野生型ポリオウイルスの感染が確認されました。

(1) 中国衛生部は、2011年7月3日から27日までの間に4人の子供(4か月から2歳)がポリオウイルスに感染し、これらの症例から野生型ポリオウイルス1型(WPV1)を分離したとWHOへ報告しました。4人は新疆ウイグル自治区ホータン地区出身で、分離されたウイルスの遺伝子配列から現在パキスタンで循環しているウイルスと遺伝学的に関連したウイルスであることが示唆されております。

(3) また、北京市衛生局は、以下の情報を公表しています。

① 最近の調査の結果、8月20日以降に北京へ来た新疆ウイグル自治区ホータン地区の3名の学生から、症状はありませんがポリオウイルスが検出されました。

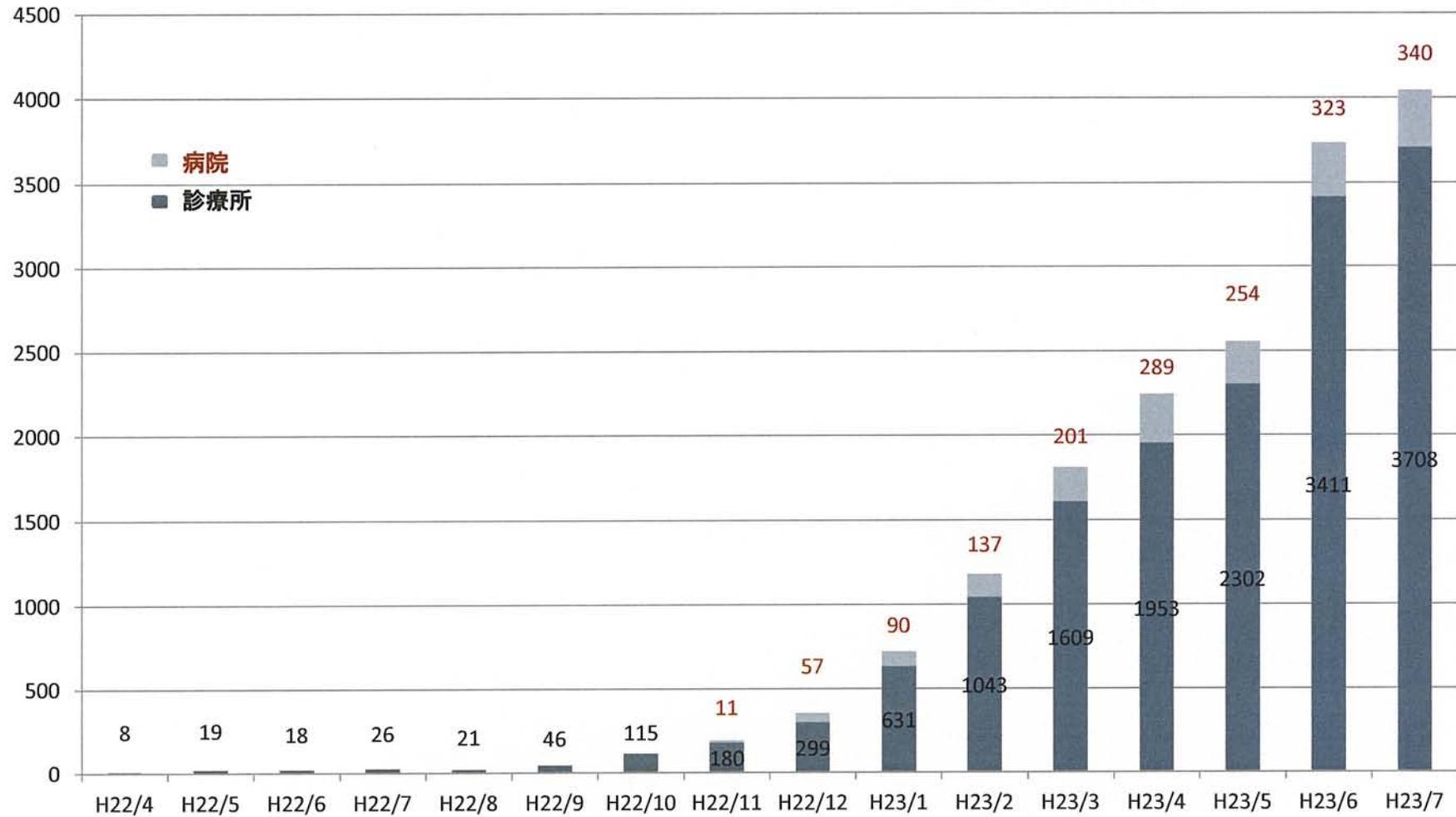
② 北京市は3名のポリオ不顕性感染の学生を経過観察とし、関係する住民に対し、ワクチン漏れ調査や補充接種等の対策を講じています。

③ 現在、北京では野生株ポリオウイルスの病例は発生していません。

④ 衛生部門は、ワクチン接種以外に、よく手を洗い、まめに衣服を着替え、生水を飲まない、食品衛生に気をつける等良好な衛生習慣がポリオを予防する重要な手段であるということを多くの市民に呼びかけています。

不活化ポリオワクチン接種者数

※月ごとの新規接種開始人数を示す



合計接種者数 17,091名

不活化ポリオワクチンの副反応①

●IPOL(サノフィ社製)の添付文書(米国)

◆局所の反応

- ・紅斑 3.2% ・硬結 1% ・疼痛 13% (48時間以内)

◆全身の反応 (DTPとの同時接種後の報告を含む)

- ・39°C以上の発熱 38%
- ・易刺激性、眠気、泣き、fussiness(不機嫌)
- ・接種後の死亡例の報告がある(因果関係は不明)

◆消化器系

- ・食欲不振、嘔吐

◆神経系

- ・他社のワクチンで、ギランバレー症候群の報告がある
(因果関係は不明)

不活化ポリオワクチンの副反応②

●米国VAERS(副反応報告制度)による

IPVを含むワクチンによる重篤な副反応の報告数

(※接種後の副反応の報告を全て集計したものであり、因果関係の評価は行われていない)

◆2010年の報告の集計

	DTP-IPV- HepB-HIB	DTP-IPV	DTP-IPV- HIB	IPV	計
死亡			27	4	31
障害		1	5	7	13
入院	3	23	124	45	195

◆1990～2010年に9件の急性散在性脳脊髄炎(ADEM)の報告がある